

# 知事記者会見の概要

日 時：令和2年8月25日(火) 10:00～10:41

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事等が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) お盆期間中の人出について

### フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (2) 令和2年7月豪雨災害による浸水被害を踏まえた今後の河川整備について
- (3) 代表質問に関連して
- (4) 鶴岡市等での風力発電事業について
- (5) G o T oトラベルキャンペーンの評価について

<幹事社：山新・時事・SAY>

## ☆報告事項

### 知事

みなさん、おはようございます。今日も暑くなりそうであります。

先週はですね、県内で 35℃を超える大変暑い猛暑日が 2 日間続くなど、厳しい暑さとなりました。熱中症で救急搬送された方は、8 月 10 日からの一週間で 121 名、8 月 17 日からの一週間で 73 名となりまして、これは昨年と同じ時期と比べて増えております。そのうち約 7 割の方が高齢者の方となっております。

先週の 21 日には、80 代の女性の方が家の中で倒れ、熱中症の疑いでお亡くなりになりました。今季では、本県で 3 人目の死亡事案となります。謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご家族の皆様には心からお悔やみを申し上げます。

今週も暑い日が続くと予想されておりますので、こまめに水分補給をしていただき、適切にエアコンを使用したりして熱中症予防に努めてくださいますようお願いいたします。

特に、高齢者や小さいお子さんには注意が必要であります。周囲の方からも熱中症予防のお声がけをぜひお願いいたします。

また、新型コロナ予防対策としまして、マスクを着けてお仕事や作業をされているときには、喉の渇きを感じる前でもこまめな水分補給と、涼しい場所での定期的な休憩などを心掛けてくださいますようお願いいたします。人との十分な距離が取れる時には、時折マスクを外すなどの工夫もお願いしたいと思います。

今年はですね、やはり、このコロナの状況での大変厳しい夏となりますけれども、何とか熱中症にならないように工夫をされて、乗り切っていただきたいというふうに思っております。

それから、7 月の豪雨災害から 1 か月が経とうとしております。この大雨により、住宅被害が床上・床下浸水を中心に約 700 棟に上りました。調査継続中ではあるのですが、被害額として道路・河川関係と農林水産関係を合わせて 270 億円を超えることが明らかとなっております。今後、さらに増える可能性もあり、本県における風水害による被害額としては過去最大となっております。

県では、被害状況をしっかりと把握するとともに、被災された皆様の生活と地域の経済活動が一刻も早く回復するよう、早急に対策を進めてまいります。

そのため、8 月 31 日の県議会 8 月臨時会には、災害査定に必要な、いろいろなことがございますので、緊急的に必要な予算を提案することとしております。内容はですね、災害査定に必要な調査・設計や河川の土砂撤去、流木処理などのほか、県独自の対策として、政府の災害復旧の対象とならない小規模な農地等被害の復旧に対する支援、また、被災住宅の復旧支援などが内容でございます。

県としましては、引き続き、被災市町村としっかりと連携をしまして、政府や関係機関・団体とも連携を図り、一日も早い復旧に向けて全力を挙げて取り組んでまいります。

それから、新型コロナへの対応でございます。全国では、東京都や神奈川県など首都圏のほか、愛知県や大阪府、福岡県などの大都市圏で連日多くの新たな感染者が確認されております。県内では、先週の20日木曜日に、本県の77例目となる新たな感染者が確認されましたが、濃厚接触者につきましては、今のところ感染が確認された方はいないと報告を受けております。

本県では、他県のような感染拡大は抑えられているところではありますが、感染拡大防止のためには、何と言いましても、県民の皆さんお一人おひとりの意識と行動が大事でございます。県民の皆様には、新型コロナの感染症のリスクが身の回りに常にあるという意識を持って、身体的距離の確保やマスクの着用、こまめな手洗いなど、感染予防の基本となる「新しい生活様式」を引き続き実践していただくようお願いいたします。これが感染予防のポイントとなるというふうに思っております。

そして、事業者の皆様には、引き続き業種別の感染拡大予防ガイドラインというものがございますので、それを徹底していただきますよう、お願いいたします。

なお、新型コロナに関する正しい知識や家庭内での予防法などを記載した、「新型コロナウィルス予防の手引き」の全戸配布を予定しております。これがその表紙でございますけれども、この手引きをですね、県民の皆さん、全戸配布を予定しているところでございます。ぜひ、これ、子どもさんでも読めるようにふりがなをつけてございますので、ご家庭でもぜひご活用いただきたいというふうに思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、感染者が増加している地域への移動については、できるだけ控えていただき、どうしても必要があつて移動する場合には、移動先でも「新しい生活様式」を徹底していただきますようお願いいたします。

さらに、これまでも申し上げておりますけれども、地域やSNS上での心ない言動や書き込みなど、感染者やその関係者及び医療従事者に対する差別や偏見、誹謗中傷などは決してなさないように、改めてお願いをいたします。

前回の会見でも申し上げたのですが、県では、こうしたいじめや偏見、差別への対策として、市町村や関係機関と連携・協力して、サポート体制を構築する必要があると考えております。それで来月9月初旬にはこれら関係機関、それから専門家による「新型コロナによるいじめ・偏見・差別問題対策協議会」、仮称でございます、を立ち上げるべく、現在その準備を進めているところでございます。

新型コロナは、誰もが感染しうる病気です。相手を思いやる気持ちを持って、心を一つに、この難局を乗り越えてまいりましょう。よろしくお願ひいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

時事通信の早田と申します。よろしくお願ひします。質問が1点ございます。お盆に先

立ちまして、県は感染拡大地域からの帰省について慎重に行うように呼び掛けていました。実際にそのお盆期間の人出は県内でどの程度だったか、またその結果を知事はどのように受け止めていますか、教えてください。

知事

はい。全国を見ますとですね、特に6月末から感染者の増加が見られたところでありますので、県民の皆様には、ご家族やご親戚の方に、体調が悪い時の帰省を控えることや感染が拡大している地域からの帰省は慎重にさせていただくということをお伝えいただきたいをお願いをいたしました。また、県内から感染が拡大している地域への帰省や旅行はできるだけ控えていただくよう、呼び掛けをさせていただいたところであります。

それで人出ということでありますけれども、お盆期間の公共交通機関等の利用状況を見ますと、8月7日から17日までの11日間で、山形新幹線・福島～米沢間の利用者数が約2万4千人でした。これは前年比で約84%の減であります。それから、8月7日から16日までの10日間で、山形・庄内両空港の利用者数が約6千5百人でありました。これは前年比で約77%の減でございます。それから山形自動車道の関沢～山形蔵王間の1日あたりの平均交通量が約1万2千台でありました。これは前年比約41%の減となっております。昨年のお盆期間と比較しますと、大幅に減少しております。

また、主な宿泊施設や観光立寄施設に聴き取りをいたしましたところ、観光客の入込状況は、昨年同期を下回っております。昨年の30%から90%と、施設によって大きな差が見られました。これは、全国的に感染が拡大していることから、旅行マインドが回復していないためと考えられます。

全国知事会でも、お盆の帰省について、家族や友人とご相談をいただくことや、電話やオンラインによる帰省も検討していただくことなどを呼び掛けたこともございまして、帰省を含め、県をまたぐ移動は抑制的であったというふうに考えております。年に1回のお盆であります。ずっとですね、3月それから5月の連休といったように、ずっと帰省もできなかった方もたくさんいらっしゃると思いますけれども、そういった中でのお盆ということを迎えたわけでありますけれども、全国的に新型コロナウイルスの感染拡大がおさまらない中、お一人おひとりが慎重に対応していただき、今年は、割合静かなお盆を過ごしていただいたものと思っております。

総じて、静かなお盆であったのかなと思っておりますけれども、そのお盆の影響、新型コロナ感染に関する影響というものは、これから出ることが考えられますので、しっかりとそこを注視していきたいというふうに思っております。

☆フリー質問

記者

共同通信の阪口です。おはようございます。今の新型コロナに関しての質問に関連して

なのですけれども、ここ1か月、第2波と言われるような高い波が来た中でですね、山形県では、感染者が非常に少なかったと思いますけれども、東北地方を見てもですね、かなり特筆すべき低さだったのじゃないかなというふうに見えるのですけれども、知事はですね、今お盆のことに関しては言及ありましたけれども、山形県に何か、何と云うのですかね、理由、特筆して低かった理由をですね、山形県の風土とかですね、いろいろなことを含めてですね、どのように分析していらっしゃるか、どのように見ていらっしゃるかというのを、お考えを伺えればと思ひまして。

知事

はい、ありがとうございます。これはですね、山形県に限らずと言いますか、東北というところのやはり何かはあるかなとは思っております。大震災の時もそうでありましたけれども、やっぱり非常に助け合いとかですね、何と言いましょか、非常に真面目に努力するという東北人の気質と言いますか、我が山形県の県民性もあると思っております。

ですから、例えば、「新しい生活様式」ということをお願いしておりますけれども、ガイドラインといったこともお願いしておりますけれども、本当に一生懸命努力してくださっているのではないかと、いうふうに思っております。そういう真面目な県民性ということが、一つはあるのではないかなというふうに思っているところでございます。

記者

ありがとうございます。もう1点すいません、またちょっと話題が変わるのですけれども、災害に関してちょっと伺います。今回ですね、災害の被害なのですけれども、県管理の河川がですね、最新では605か所が被害を受けたということで、非常に多くなっているなという印象なのですけれども、一時期よりは河川関係の予算がかなり、ピークよりも相当減額されている、少なくなっているという面もあります。かつ公共事業をすることに対してのいろいろ抵抗感みたいなものも増えてきたりしている中だと思うのですけれども、ハードを整備していくことももちろん大事だと思いますし、ソフト面ももちろん強化していくことは大事だと思いますけれども、知事は今後その整備の方向性についてですね、今どのようにお考えかというのをいただけますでしょうか。

知事

はい。今回の本当に、河川、特に最上川の氾濫というのは大変大きかったわけでありまして、その支流は大体県管理河川が多くて、その県管理河川について申し上げますと、今記者さんからありましたけれども、605か所ということであります。133河川の605か所というふう聞いております。大変大きな被害だったなと思っております。今回の豪雨の後に、被災状況を把握するため私自身も現場を視察したところであります。視察をして、今回は記録的な豪雨、本当に最上川では過去最高の水位を記録したところであります。

し、雨の降り方もやはり変わってきているなどというような実感を持ちました。改めてそういう印象を持ったところであります。

今後の県の対応としましては、まずは被災した箇所への応急復旧及びそれに続く原型復旧を早期に進めますとともに、今回の記録的な豪雨を踏まえ、更に河川の安全性を高めるため被災要因を分析しまして、その結果を踏まえた対策を検討してまいります。何と云いましてもやっぱり要因分析、しっかりやらなきゃいけないと。大変多くの箇所ではあるのですけれども、被災要因というものをしっかりと分析をして、それを踏まえての対策をしっかりと検討してまいります。

このような県民の安全確保ということのためには、また財源の確保ということも不可欠でありますので、今年度限りとされている「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」この終了後の地方支援の継続についても、政府にしっかりと働きかけてまいりたいというふうに考えているところでございます。

記者

ありがとうございます。もう1点、要は河川整備の哲学みたいなものをちょっと伺いたいのですけれども。方向性というかですね、要は水を河川の中に留めておくのはもう難しいんじゃないかという専門家の指摘もあつたりします。逆にしっかり堤防を築いてなるべく溢れないようにというのがあります。対立は必ずしもしないとは思うのですけれども、知事としてはどちらのほうの考え方に近いのかなと思ひましてですね。

知事

そうですね、やはり組み合わせが大事かなと思います。一つひとつ河川が違うわけでありましてけれども、それぞれの河川の形といいますか地形、そして周りの様子ですね、人家があるとかないとかもあると思います。そういった総合的なことを、様子を、状況をちょっと考えて、それでやっぱり対策していくことが大事だと思っております。今記者さんがおっしゃったように流下能力を高める、支障木を伐採してですね、川底を掘削したりして流下能力を高めるという方法、それから堤防を築くという方法、また遊水地でちょっと水を少し貯めおく、下流の災害を少なくするためにですね、そういった方法もあるわけがあります。そういったいろいろなものを組み合わせて、一つひとつの川とその周りの状況、そういったことをしっかりと把握しながらですね、検討を進めていくべきだというふうに思っております。

記者

日本経済新聞の浅山と申します。PCR検査の関係でお尋ねしたいのですが、今むしろ無症状の人とかですね、仕事をしている人が自分がかかっていないことを証明するために、PCR検査をもっと手軽に受けられないかという話がありまして、東京都とかですね、一部

の自治体では積極的にそういうことをやっている動きがあるかと思います。山形県の場合は積極的疫学調査ですね、幅広く濃厚接触者をやっているという話は、今までも話を伺っておりますが、先日製造業者との懇談会の中でもですね、企業の方が、むしろ手軽にですね、PCR検査を受けられるとですね、むしろ陰性であることが分かっているいろいろな仕事がやりやすいと。また海外の技能実習生の方とかですね、いろんな面でもやりやすいと。ただ山形県にはそういう場所がなくて困っているというお話もありました。これについてはいくら検査をやってもですね、毎日受けるわけにもいかないし、どうかという、まあ一種の神学論争的な面もあるかと思うのですが、知事はその点はどのようにお考えでしょうか。

#### 知事

そうですね、やはり希望者がPCR検査を受けられることが望ましいという声も、聞いたことがございます。ですが、今の体制ですとやはり、PCR検査というのは、感染の疑いがある方、そして陽性と分かった場合にはその濃厚接触者ということを積極的に検査させていただいているという状況でございます。そしてこの間の製造業の皆さんとの意見交換の後にですね、こういう意見があってこれについてはというようなことを担当に聞いてみた時にですね、いつでも、いつでもっておかしいのですが、民間の医療機関でもPCR検査はできると。ただし有料ですね、できるはずなんだということをお聞きしております。ただやはり、一般の患者さんですね、コロナになっているかなっていないか分からない方の検査ということ、同じ空間で検査するというのはなかなかやっぱりそれは大変なことでありますので、そういった体制をどうしていくかということがあるのかなと思っております。この間、報道で出ておりましたけれども、医師会とかですね、地区医師会とか、そういったことでもPCR検査体制ということについて検討を進められるのではないかとこのように思いますけれども、ただ一般の方に対してどうなのかということまではですね、ちょっと進んでいないかなとも思います。ただ必要があつてですね、あの時会議で意見が出たのは、確か外国の実習生の方がですね、親御さんが危篤だということで帰りたい時に、PCR検査をして陰性ということが前提条件になるというようなことで、濃厚接触者ではないけれども、そういう検査が必要だということがありました。有料でもいいから検査してほしいということでありましたので、そのことはちょっとそれが前に進むようにということ、ちょっと担当のほうには伝えたところでございます。

一般的なこととしては、やはり1回陰性であっても、その後またずっと陰性であるというわけではございませんので、そこら辺のやっぱりジレンマはあるかなと思います。毎日検査しているわけにはいかないというふうに思いますので。やはりちょっとなかなか大変な、我が県の医療体制の中ではなかなか大変だなと思いますけれども、何らかのいろんなリスク管理というものを、体制を整えればですね、そういう一般の方でも有料で、検査を受けたい方が検査を受けられるようになるという、そういう体制を築くことは不可能ではないと思います。ただ時間はかかると思います。

記者

むしろ自分が陰性であることを確認したいから、もっと気軽に受けられる体制を公的なですね、形でも作っていただけないかという声があるかと思うのですか、そこはさすがにそこまでは。

知事

ええ、公的なというとやはりなかなか大変だと思います。1回やはり15,000円ぐらいかかると聞いておりますので。やっぱり毎日のようにですね、お受けになりたいという方がおられた場合には、それはやはり公費となりますと、県民、国民の税金ということになりますので。やっぱり気軽に公費でというのはなかなか大変なのかなというふうに思います。

記者

河北新報の岩田です。先ほどの豪雨の話で、被災要因の分析をということで、大体これどのくらいのスパンでやりたいとかですね、いつまでぐらいに要因分析を終えたいとかつてあるのですかね。

知事

はい、県管理河川のですね。今担当が来ていると思いますので、なるべく早くとは思いますが。

県土整備部次長

県土整備部の高橋でございます。実際に河川管理業務を担当しております総合支庁におきまして、今主要な河川の要因分析のほうを進めておりますが、なるべく早急に分析を終えたいと思っておりますが、具体的にいつまでということではちょっとこの時点で申し上げられる状況にはございません。なるべく早くやっていきたいということで考えております。

記者

昨日の市町村長とのウェブ会議でも一部意見が出ていたのですが、排水設備のですね、増強、充実化とか、排水ポンプとかだと思いますけれど。

県のほうでは今年度の当初予算でですね、可搬式の排水ポンプの配備を決めていますけれども、今回の規模の大雨を受けて、より増強だとか、充実化をされるようなお考えというのは何かありますでしょうか。

知事

はい。まずもって当初予算で組んであるその排水ポンプ、それはしっかりと配置したい



と、準備したいというふうに思っております。この豪雨ということが、やっぱり雨の降り方が私も変わってきたというふうな実感を持っておりますので、さらに増強するかということについても、担当としっかり議論をしてみたいと思います。

記者

TUYの鈴木です。先ほどのお盆の人出の、利用の状況で、観光宿泊施設の聴き取りで去年を下回って30%から90%と発表がありましたが、非常に幅が広い状況ですけど、特に90%というひどいところはこういったところだったのでしょうか。

知事

昨年同期を下回っていて、昨年の約30%から90%、90%というのは、それだけ減少したというわけではなく、昨年の同期比で90%、というのは1割減ということになります。30%のところは7割減となりますので、だから1割のところはなかったようで、30%から90%までということになっております。

記者

毎日新聞の的野です。ちょっと話が変わるんですけども、庄内のほうの羽黒町（補足：正確には鶴岡市及び庄内町。以下同じ。）の風力発電計画の件で、県のホームページですと、そういった風力発電の適地として羽黒町が入っていると思うんですけども、一部住民のほうからは反対の声も上がっておりまして、知事としてはこういった受止めをされているかというのを伺いできたらと思います。

知事

はい。あり得ないというふうに思います。県はですね、再生可能エネルギー開発には熱心でありますけれども、やはり出羽三山というところは、山形県のみならず東日本随一の精神文化を擁する、そういうところがございますし、山形県の宝でもあり、日本遺産になっております。日本の宝でもあります。そこはですね、1,400年もの歴史があつて、ストーリーというものもあるわけです。空気感というのも非常に大事だというふうに思っています。そういったことを考えるとですね、ちょっとあり得ないなというふうに私は思っております。

記者

さくらんぼテレビの白田です。「Go To トラベル」についてなんですけども、およそ1か月が経って、その評価を発言している他県の知事もいらっしゃいますが、吉村知事はこの1か月が経って「Go To トラベル」の県内への効果も踏まえて、どう評価されているのか教えてください。

知事

はい、わかりました。それなりの効果はあったのではないかと考えております。

主な宿泊施設からの聴き取りでは、「Go To トラベルキャンペーン」を利用した宿泊予約は、業界で期待したほどではなかったものの、入ってきているということでございます。

やっぱりこれが、「Go To トラベルキャンペーン」がなかったらということを考えてみると、なかったらもう大変な、深刻な状況になっていたということでありまして、実施してもらって助かったという観光業界の声をお聞きしております。

その開始に当たってですね、いろいろと考えられたということ、例えば旅行会社の皆さんが「新しい旅のエチケット」ということでそれを紹介して、旅行者の皆さんがそれを守ってくださったということが一つはあると思いますし、またそれをお迎えする宿泊施設でも感染防止対策をしっかりと講じていただいたということで、やはり感染確認もなかったということが何よりも私としては安堵しているところでございます。

やはり、生業ということも大事でありますし、観光ということも非常に大事です。感染予防ということにしっかりと意を用いていただいて、旅行者の皆さんは旅のエチケットというのを守っていただき、また、宿泊施設では感染予防対策をしっかりと講じていただいて、それで県民の皆さんはお迎えする気持ちですね、おもてなしの心ということで、気持ちはそういう気持ちで、感染予防しながらなんですけれども、そういう気持ちでお迎えしていただけたらというふうに思っております。

記者

確認なんですけれども、失敗だったと評価した知事もいらっしゃいましたが、吉村知事はそれなりの効果があったという評価でよろしいですか。

知事

そうですね。やっぱり何もなかったら、もう大変な状況だったというのが私としても思いますし、観光業界もそのように多くの声が聞かれました。それなりの効果はあったものというふうに思っております。

記者

今後、継続されていく中で、今感じている課題があれば教えてください。

知事

課題ですか。そうですね、感染予防の基本というのが、何回も、毎回申し上げていますが、「新しい生活様式」でございまして、それを旗を作ってまでですね、県民の皆さんの命と健康を守るためにということで、旗まで作って掲げてもらってもおります。

それから、先ほどのこれですね、「新型コロナウイルス予防の手引き」ね、これなども全

戸配布をこれからさせていただいて、市町村のご協力を得ながら配布させていただきますけれども、やはりその新型コロナウイルスという正体が全然わからなかった時よりは、こういうふうに対処すれば案外感染は予防できるというようなことが少しずつわかってきたやに思います。それから治療薬の開発ということがやはりゴールになるのかなと思っておりますけれども、課題はやはり何と言いましても感染予防と地域経済活動の両立、そこだと思っています。

例えば飲食店はですね、スペースといいますか、身体的距離を確保してのお客さんをお迎えするというので、やはりなかなかその経済性がですね、大変だというようなこともお聞きしているところでありますので、そういった準備といった、設備投資ということに関しては、国も県も、おそらく市町村も支援ということをやっておりますし、そこがやっぱり大事なのかなというふうには、大変なんだけれどもなんとか切り抜けていただきたいなというふうにも思っているところです。

もつとも、命と健康を守るということで、課題はやはり医療体制がまだまだ脆弱だということが一つありますし、それから、できるだけ普段の生活をして県内旅行もしていただきたいと申しあげても、県民の皆さんのマインドがなかなか戻らないというのがあります。そういうことはね、やはり恐怖ということから来ていると思いますし、長く恐ろしいと思っていたことから解き放たれるというのにはまた時間がかかるし、こういったハンドブック、手引きみたいなものも読んでいただきながらですね、少しずつリハビリをするような感じで少しずつ普段の生活を取り戻していただければというふうに思っております。ちょっと長くなりましたが、はい。

#### 記者

最後にもう1点なんですけども、先ほどのお盆の人出なんですけども、軒並み大幅減となっていて、帰省を含め県を跨ぐ移動は抑制されたというふうに先ほど説明がありました。

吉村知事はこの抑制された状況、よく我慢してくれたとかですね、この状況に対する評価はどうでしょうか。

#### 知事

本当に県民の皆さんよく対処して、慎重に行動を取っていただいたなというふうに、心から感謝を申し上げたいというふうに思います。本当に、割合静かなお盆だったのではないかなと思っております。

ただ、それが総括ではございませんと申し上げたのは、お盆の影響がこれから出るかもしれないとは、いうふうに聞いておりますので、新型コロナに関してなんですけれども、その感染がですね、どうなるかというのは、30日頃にならないとわからないというようなことも聞いておりますので、本当にすべてが良かったということもちょっとまだ言えなくて、大変歯切れが悪くて申し訳ないのですが、本当にご努力していただいたなというふう

に感謝を申し上げたいと思いますと同時に、コロナに関してはしっかりとまだその影響を注視していかなきやいけない段階だというふうに捉えております。

記者

追加ですみません。1点だけちょっと確認なんですけど、先ほどの羽黒町の発電所、あり得ないとおっしゃったのは、作ることはあり得ないと、そういう理解でよろしいですね。

知事

風力発電ですね。

記者

風力発電を建設することはあり得ないという。

知事

出羽三山というところは、私どもにとって、県民の皆さんにとって特別なところでありますので、そういったところはしっかりと守らなきやいけないというふうに思っております。

記者

わかりました。あともう1点。国のほうのですね、医療専門家の、国だけとは限りませんが、感染症の専門家からですね、今まさにそのコロナについてですね、第2波の真っ只中にいるという意見があったりですね、逆にもうピークアウトしてきているという意見もあると思います。知事は今どのように捉えていらっしゃるかという認識を伺えればと思います。

知事

そうですね、私は専門家ではございませんけれども、全国的にやはり感染が拡大している時でありましたらば、やはり非常に警戒していかなきやいけないと思っておりますし、ただ、専門家の方がピークは過ぎたと、棒グラフで見ても感染確認人数が落ちてきているというようなことを見ますと、そういう段階にあるのかなと思いつつもですね、ただし、それが収束したわけではございませんので、どこでどうなるのか、このお盆の影響が全国的にいつ出てくるのか、もう終わってしまったのか、これから出てくるのか、ということはやっぱりまだまだ注視をしないと、私としてもはっきりとは申し上げられないというところでございます。